

市民版



同志社中とソウル・慶熙中の生徒

塔作りで日韓交流

左京

京都市左京区の同志社中で22日、韓国・ソウルの慶熙中の生徒を迎えての授業があった。両中の生徒が協力し合い、乾麺のスパゲティでどれだけ高い塔が作れるかをチーム別で競った。

同志社中は5年前から、言葉の壁を超えて一緒にものづくりをする楽しさを感じてもらおうと、慶熙中と交流を続けている。この日、同志社中は2年生18人、慶熙中は1〜3年12人が参加した。授業では両中の生徒が混じる形で2〜3人

一組となり、スパゲティの塔作りに挑戦。各チームごとに乾麺30本と接着剤、マシユマロ1個が配られ、生徒らは英語と日本語を交えながら作戦を練った。

制限時間の20分以内に塔はできたが、仕上げのマシユマロを最上部に載せた途端に崩れそうになるチームも。慶熙中2年のチョン・ジュンヨン君と同志社中2年の毛利楓さんは「時間も短くて2人で作るのは大変だったけど、英語で互いに話しながらできたのは楽し

かった」と話した。

(太田敦子)

スパゲティの乾麺を接着剤で貼りつけながら塔を作る日韓の中学生たち(京都市左京区・同志社中)



熊本地震の被災地支援へくまモン(京都市伏見区)

「MOMON」

同志社中学

Asia STEAM Camp

本年度5年目を迎える慶熙中学との授業交流。国境を超えて先生たちが授業を共同で設計し、韓国人と日本のインタナショナルなチームに課題を課す取り組み。

英語を使つてのコミュニケーション、もちろんお互いの母語も覚え愛ながらの人としての交流、この3日間のプログラムの終わりのころには、初めて出会ったとは思えないくらいの仲になっている。

技術科では、ものづくりだけでなく、国境をこえて人と人が繋がり合うそんな世界に向けた活動をますます応援していきます。

京都新聞に掲載

技術@DJHS